

石水博物館所蔵の錦絵・古典籍 746点を国書データベースで画像公開 伊勢の豪商の大規模コレクション

概要と公開資料

国文学研究資料館（東京都立川市）は、石水博物館（三重県津市）と連携し、石水博物館が所蔵する錦絵・古典籍コレクションの画像を、国文学研究資料館が提供する国書データベースで公開しました。公開資料には、歌川国貞（うたがわくにさだ・3世歌川豊国）、歌川国芳（うたがわくによし）ら江戸時代後期の絵師による錦絵、重要美術品に認定されている古典籍、三重県関係資料等が多く含まれています。

今回公開資料 全746点

○錦絵 歌川国貞・歌川国芳等画 470点

○重要美術品認定古典籍 4点 ほか

画像一覧 <https://kokusho.nijl.ac.jp/page/list-sesm.html>



石水博物館は伊勢の豪商であった川喜田（かわきた）家のコレクションを中心に、伊勢歌舞伎の番付、本居宣長関係の資料等も多く所蔵しており、国書データベースで今後継続して画像公開していきます。

▶ 『日本駄右エ門猫之古事』（にっぽんだえもんねこのこじ）



歌川国芳画 大判三枚続
山本屋平吉版
弘化4(1847)年
整理番号：国芳202

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/300128076>

弘化4年に江戸市村座で催された三代目尾上菊五郎の一世代（引退公演）「尾上梅寿一代噺」に取材した作品。菊五郎は中央の猫石の精（老婆に化けた猫）のほか七役を演じ分けた。右の行灯には、油をなめる猫の顔のシルエットが浮かぶ。手ぬぐいをかぶって踊る二匹の猫又、中央の破れ御簾からの大顔は、共に三毛のぶち模様で化け猫の典型的毛色である。



公開資料（続き）

▶ 『菅原伝授手習鑑／車引』 [五代目市川海老蔵の松王丸、三代目嵐吉三郎の梅王丸、初代沢村訥升の桜丸]

(すがわらでんじゅてならいかがみ／くるまひき)

歌川国貞（三代歌川豊国）画
大判三枚続

天保11(1840)年
整理番号：国貞176

URL:

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/300128284>

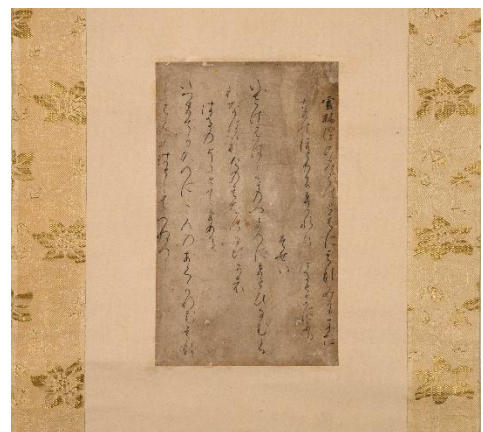


本作は、江戸中村座で天保11年9月に上演された「菅原伝授手習鑑」に取材した作品。敵味方に分かれた三つ子の兄弟、菅原道真の舎人・梅王丸と道真を岳父に持つ齊世親王の舎人・桜丸が、自らの主人を陥れた藤原時平の牛車を止めようとして、時平の舎人・松王丸と挑み合う「車引」の場面。松王丸と梅王丸は互いに大見得を切る。

▶ 『高野切』（こうやぎれ）

伝 紀貫之筆（源兼行筆） 1幅
平安時代後期 整理番号：軸151
重要美術品

現存する『古今和歌集』の最古の写本である「高野切」は、巻九の断簡が高野山に伝存したことからこの名があり、古筆切の最高峰として名高い。紀貫之(生年不詳～945年頃)の筆と伝わるも、実際には三人の寄書で構成されていると考えられており、それぞれの筆使いから第一種、二種、三種に分類されている。当館の所蔵部分は巻第二春歌下の部分で、第二種、源兼行の筆跡に分類される。厚手の麻紙に雲母砂子を散らした良質な料紙に、やや右上がりの力強い筆致が調和し、平安時代の優雅な文化の一面を伝えている。



【20コマ目】

URL:

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/300128540>

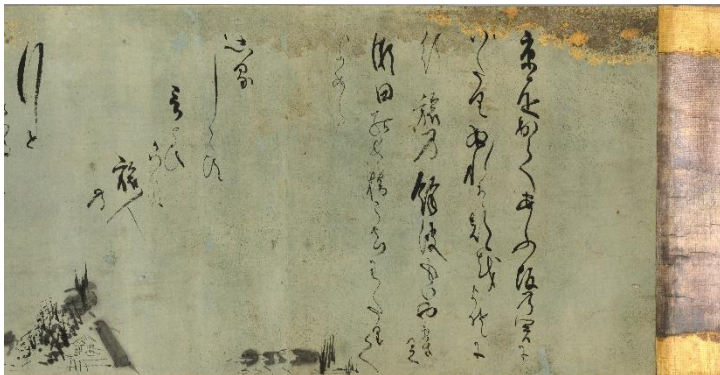


国書データベースで公開されている石水博物館の画像は、どなたでも無料で閲覧できます。画像の二次利用は [CC BY-NC 4.0](https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/) の条件により行ってください。

◆◇ 共同プレスリリース ◇◇

公開資料（続き）

『東行記』（とうこうき） 烏丸光広筆 1軸 江戸時代前期
整理番号：卷子06



【17コマ目】

京から江戸までの東海道の名所を綴る歌画卷。光広は何度か江戸へ下っており、その所感を墨画と和歌で伝えたものである。黄檗や浅黄の着彩料紙に、金銀砂子と切金で装飾が施され、その上に墨の濃淡を活かして流れるように描かれた書画を引き立てている。裏打紙にも浅黄の刷毛目があり、古格を留めている。なお、署名はない。

URL:
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/300128524>

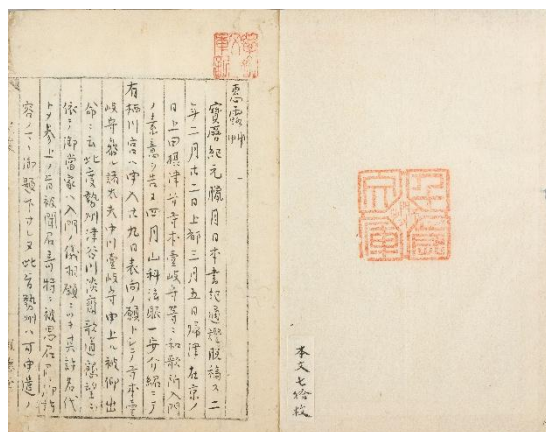


『恵露草』（めぐみのつゆくさ）【三重県指定有形文化財】

谷川士清筆 1冊 江戸時代中期
整理番号：冊子08

谷川士清（たにがわことすが・1709-1776）自筆の和歌集で、『日本書紀通証』完成翌年の宝暦2(1752)年に有栖川宮職仁親王の門人となってから、同6年に至る5年間に詠んだ約440首の歌がおさめられており、なかには親王が添削したものもある。

谷川士清は、伊勢国津生まれの医者・国学者。著書『日本書紀通証』『和訓栞』等。



【5コマ目】



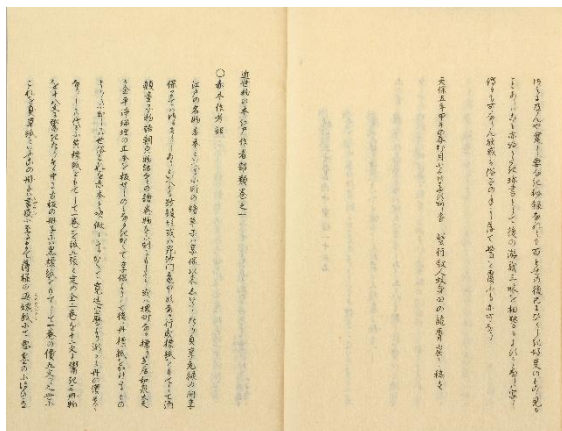
URL:
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/300127859>

『近世物之本江戸作者部類』（きんせいもののほんえどさくしゃぶるい）

曲亭馬琴著 2巻2冊
天保8（1837）年
整理番号：075-37

天保5（1834）年に著された曲亭馬琴による読本（よみほん）作家の伝記。巻二下以下は執筆されなかった。本書は天保8年、川喜田遠里（第13代当主）が馬琴の親友で遠里自身とも親交の深かった松坂の商人の小津桂窓から借用し、書写させたもの（桂窓旧蔵本は天理図書館蔵）。

URL:
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/300128519>



【14コマ目】

◆◆ 共同プレスリリース ◆◆

石水博物館・国文学研究資料館のご紹介と問い合わせ先

石水博物館

SEKISUI MUSEUM

石水博物館は、川喜田久太夫（号：半泥子）（かわきたきゅうだゆう、はんでいし）が昭和5年（1930）に地域文化の振興と社会福祉活動の拠点として設立した財団法人石水会館を母体としています。

石水博物館の所蔵品は、寛永3年（1626）から伊勢商人の豪商として活躍した川喜田家の旧蔵資料を中心としています。その分野は古典籍・伊勢商人関係史料・錦絵・書画・茶道具など多岐にわたります。また、同家16代当主であり陶芸家としても知られる川喜田半泥子の作品や周辺資料も多数、保存管理しています。



石水博物館では2026年3月20日から6月7日まで企画展「伊勢商人の商いと文化」を開催中です。連携により撮影した資料の一部も展示しています。詳しくは[ホームページ](#)をご覧ください。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

現在、文系唯一の大規模学術フロンティア促進事業（文部科学省）として、「データ駆動による課題解決型人文学の創成～データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓～」（国文研DDHプロジェクト）を、令和6（2024）年度から令和15（2033）年度までの10年計画で実施しています。

【国文学研究資料館 ホームページ】 <https://www.nijl.ac.jp/>
【DDHプロジェクト ホームページ】 <https://www.nijl.ac.jp/ddh/>

【本件問い合わせ先】

（資料について）
石水博物館 学芸課
E-mail: office★sekisui-museum.or.jp
TEL: 059-227-5677
<https://sekisui-museum.or.jp/>

（データベース・画像について）
国文学研究資料館
基盤データセンター
E-mail: center_db★@nijl.ac.jp
<https://www.nijl.ac.jp/ddh/>

E-mailの★は@に変換してください